

小橋工業(株)のホームページ(以下、弊社サイト)においては、カタログ・取扱説明書・パーツリスト等の電子データの閲覧、ダウンロードのサービス(以下、本サービス)をご提供しております。
本サービスをご利用の際には、以下の注意事項をご確認ください。

電子データの取扱いについて

電子データの内容について

- 本サービスにおいては、弊社製品のカタログ、取扱説明書、パーツリスト等、製品に関する全ての印刷物を網羅するものではありません。
- カタログ、取扱説明書、パーツリストの内容は、製品の仕様変更などにより、予告なく変更される場合があります。その為、弊社サイト内に掲載される電子データの内容は、販売店等で配布、掲示されるカタログ、製品購入時に同梱する取扱説明書、印刷物として存在しているパーツリストの内容とは異なる場合がございます。

表記内容は、発行当時の情報であり、弊社純正部品の名称、小売単価、各営業所の名称、所在地などの情報が現在と異なる場合があります。
また、製品安全上の取り扱い、環境対応につきましては、製品販売時の法令、規制に適合するものであり、製品販売後の法令、規制の変更内容を反映していない場合があります。予めご了承ください。

著作権について

本サービス内の電子データにつきましては、弊社(小橋工業株式会社)が著作権その他知的財産権を保有します。無断で他のウェブサイトや印刷媒体に転載することや複製、翻訳等はできません。但し、お手持ちの製品ご使用の為、1部に限り印刷することができます。

保証について

弊社の製品保証、安全性の保証は製品付属の書面に基づく保証に限られており、弊社サイト内の電子データに基づく保証は提供いたしません。

お問合せについて

ご使用の製品の取り扱い及び、使用上の安全等に関するお問合せは、ご購入店にご相談頂きますよう、お願いいたします。

免責事項

弊社サイトのご利用に起因するソフトウェア、ハードウェア上の事故その他の損害等につきましても、一切の責任を負いません。
弊社サイトのご利用に際して生じたお客さまと第三者との間のトラブルにつきましては、一切責任を負いません。
弊社サイトのサービスは予告なく中止、または内容や条件を変更する場合がございます。

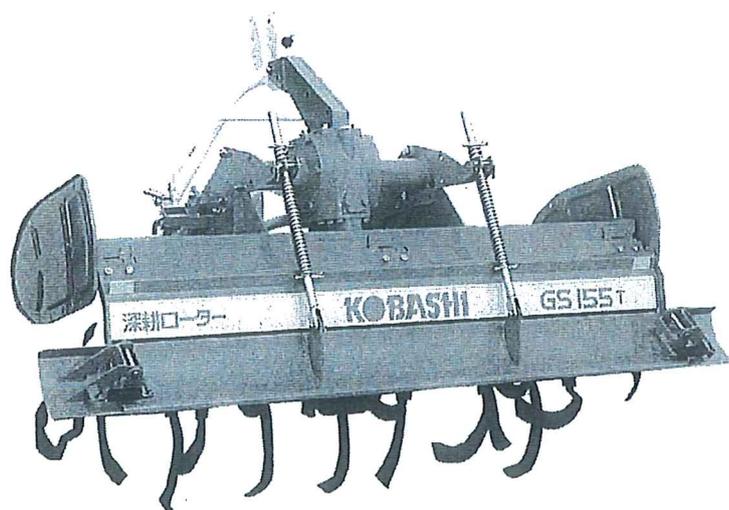
以上

小橋工業株式会社

コバシ深耕ローター

取扱説明書

GS125T.155T-(4S.3S.0S)
GS125.155-(S.T.U.MU)



GS155T-4S



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本
取扱説明書をお読みください。誤った使いかたをすると、
事故を引き起こす恐れがあります。
お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

KOBASHI

はじめに

このたびは、コバシ深耕ローターをお買い上げいただきましてありがとうございました。

この取扱説明書は、深耕ローターの性能を十分に発揮させ、より安全で快適な農作業をしていただくためにも、ご使用前によくお読みいただき、正しい取扱いをしてくださるようお願いいたします。

又、深耕ローターを他の人に貸出しされる場合には、この取扱説明書も併せて貸出していただき、正しい取扱いをしていただくようにご指導をお願いいたします。

なお、本製品については、不断の研究成果を新しい技術としてただちに製品に取入れておりますので、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますが、あらかじめご了承ください。

▲ 安全作業のポイント

◎安全な作業をしていただくためには、まず機械の使い方を十分理解し、正しい取扱いをすることが基本となります。

◎この取扱説明書では、特に、重要と考えられる取扱上の注意事項について、次のように表示しています。

必ずお読みいただいて事故のない安全な作業をしてください。

▲ **危険**…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

▲ **警告**…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

▲ **注意**…その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。

取扱上の注意…その警告文に従わなかった場合、機械の損傷を起こす恐れのある操作を示します。

コバシ深耕ローターの使用目的・使用範囲

この深耕ローターは耕うん作業用です。

使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。

目次

▲ 安全に作業するために	1	作業前の点検	20
1 はじめに	1	1 各部のボルト・ナットのゆるみ	20
2 作業の前に	1	2 ジョイントへのグリスアップ	20
3 トラクタへの着脱	1	3 オイル量	20
4 防護カバー類の取付け	2	4 ジョイントのノックピン	21
5 装着時の前後バランスの確認	2	5 空転、暖機運転	21
6 トラックへの積み・降ろし	2	移動、圃場への出入り	21
7 一般走行	3	上手な作業の仕方	22
8 圃場への出入り	3	1 作業速度と耕うん軸回転数	22
9 作業をしているとき	3	2 エプロン調整	23
10 作業中の点検	4	3 作業操作	23
11 トラクタを止めるとき	4	4 エクステンションエプロンの使用	23
12 その他	4	耕うん爪の取付け	24
▲ 安全ラベルの取扱い	5	1 耕うん爪及び取付ボルトの種類と本数	24
サービスと保証について	7	2 耕うん爪の取付方法	25
各部の名称	8	保守・点検	26
深耕ローターの組立（日農工標準オートヒッチ）	9	保管・格納	27
深耕ローターの組立（日農工特殊3Pヒッチ）	10	主要諸元	28
ジョイントの取付準備	11	トラクタ別装着表	30
1 切断方法	11	点検整備一覧表	34
2 取付方法	11	異常診断一覧表	35
3 長さの確認	12	用語解説	37
4 入力軸セフティカバーの取付け	12		
トラクタへの装着（日農工標準オートヒッチ）	13		
1 装着前の準備	13		
2 トラクタへの装着	15		
3 装着後のトラクタとの調整	17		
4 トラクタからの取外し	18		
トラクタへの装着（日農工特殊3Pヒッチ）	19		

小橋工業(株)のホームページ(以下、弊社サイト)においては、カタログ・取扱説明書・パーツリスト等の電子データの閲覧、ダウンロードのサービス(以下、本サービス)をご提供しております。
本サービスをご利用の際には、以下の注意事項をご確認ください。

電子データの取扱いについて

電子データの内容について

- 本サービスにおいては、弊社製品のカタログ、取扱説明書、パーツリスト等、製品に関する全ての印刷物を網羅するものではありません。
- カタログ、取扱説明書、パーツリストの内容は、製品の仕様変更などにより、予告なく変更される場合があります。その為、弊社サイト内に掲載される電子データの内容は、販売店等で配布、掲示されるカタログ、製品購入時に同梱する取扱説明書、印刷物として存在しているパーツリストの内容とは異なる場合がございます。

表記内容は、発行当時の情報であり、弊社純正部品の名称、小売単価、各営業所の名称、所在地などの情報が現在と異なる場合があります。
また、製品安全上の取り扱い、環境対応につきましては、製品販売時の法令、規制に適合するものであり、製品販売後の法令、規制の変更内容を反映していない場合があります。予めご了承ください。

著作権について

本サービス内の電子データにつきましては、弊社(小橋工業株式会社)が著作権その他知的財産権を保有します。無断で他のウェブサイトや印刷媒体に転載することや複製、翻訳等はできません。
但し、お手持ちの製品ご使用の為、1部に限り印刷することができます。

保証について

弊社の製品保証、安全性の保証は製品付属の書面に基づく保証に限られており、弊社サイト内の電子データに基づく保証は提供いたしません。

お問合せについて

ご使用の製品の取り扱い及び、使用上の安全等に関するお問合せは、ご購入店にご相談頂きますよう、お願いいたします。

免責事項

弊社サイトのご利用に起因するソフトウェア、ハードウェア上の事故その他の損害等につきましても、一切の責任を負いません。
弊社サイトのご利用に際して生じたお客さまと第三者との間のトラブルにつきましては、一切責任を負いません。
弊社サイトのサービスは予告なく中止、または内容や条件を変更する場合がございます。

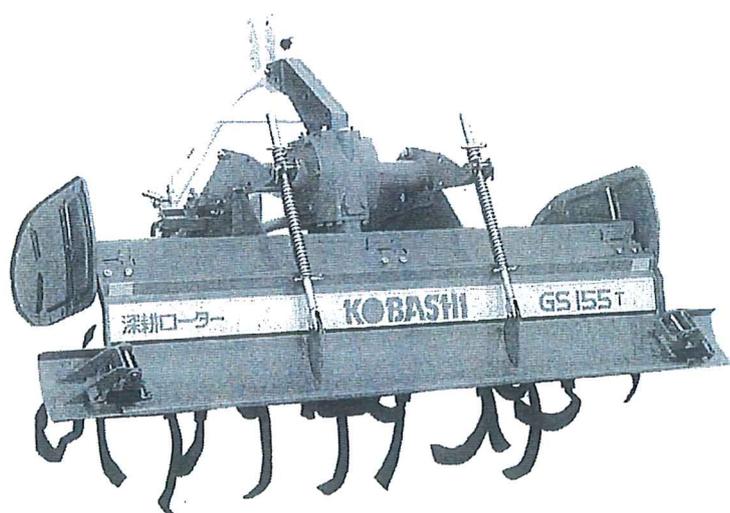
以上

小橋工業株式会社

コバシ深耕ローター

取扱説明書

GS125T.155T-(4S.3S.0S)
GS125.155-(S.T.U.MU)



GS155T-4S



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本
取扱説明書をお読みください。誤った使いかたをすると、
事故を引き起こす恐れがあります。
お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

KOBASHI

はじめに

このたびは、コバシ深耕ローターをお買い上げいただきましてありがとうございました。

この取扱説明書は、深耕ローターの性能を十分に発揮させ、より安全で快適な農作業をしていただくためにも、ご使用前によくお読みいただき、正しい取扱いをしてくださるようお願いいたします。

又、深耕ローターを他の人に貸出しされる場合には、この取扱説明書も併せて貸出していただき、正しい取扱いをしていただくようにご指導をお願いいたします。

なお、本製品については、不断の研究成果を新しい技術としてただちに製品に取入れておりますので、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますが、あらかじめご了承ください。

▲ 安全作業のポイント

◎安全な作業をしていただくためには、まず機械の使い方を十分理解し、正しい取扱いをすることが基本となります。

◎この取扱説明書では、特に、重要と考えられる取扱上の注意事項について、次のように表示しています。

必ずお読みいただいて事故のない安全な作業をしてください。

▲ **危険**…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

▲ **警告**…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

▲ **注意**…その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。

取扱上の注意…その警告文に従わなかった場合、機械の損傷を起こす恐れのある操作を示します。

コバシ深耕ローターの使用目的・使用範囲

この深耕ローターは耕うん作業用です。

使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。

目次

▲ 安全に作業するために 1	作業前の点検 20
① はじめに 1	① 各部のボルト・ナットのゆるみ . . . 20
② 作業の前に 1	② ジョイントへのグリスアップ . . . 20
③ トラクタへの着脱 1	③ オイル量 20
④ 防護カバー類の取付け 2	④ ジョイントのノックピン 21
⑤ 装着時の前後バランスの確認 . . . 2	⑤ 空転、暖機運転 21
⑥ トラックへの積み・降ろし 2	移動、圃場への出入り 21
⑦ 一般走行 3	上手な作業の仕方 22
⑧ 圃場への出入り 3	① 作業速度と耕うん軸回転数 22
⑨ 作業をしているとき 3	② エプロン調整 23
⑩ 作業中の点検 4	③ 作業操作 23
⑪ トラクタを止めるとき 4	④ エクステンションエプロンの使用 . 23
⑫ その他 4	耕うん爪の取付け 24
▲ 安全ラベルの取扱い 5	① 耕うん爪及び取付ボルトの種類と本数 . 24
サービスと保証について 7	② 耕うん爪の取付方法 25
各部の名称 8	保守・点検 26
深耕ローターの組立（日農工標準オートヒッチ） . 9	保管・格納 27
深耕ローターの組立（日農工特殊3Pヒッチ） . 10	主要諸元 28
ジョイントの取付準備 11	トラクタ別装着表 30
① 切断方法 11	点検整備一覧表 34
② 取付方法 11	異常診断一覧表 35
③ 長さの確認 12	用語解説 37
④ 入力軸セフティカバーの取付け . . 12	
トラクタへの装着（日農工標準オートヒッチ） . 13	
① 装着前の準備 13	
② トラクタへの装着 15	
③ 装着後のトラクタとの調整 17	
④ トラクタからの取外し 18	
トラクタへの装着（日農工特殊3Pヒッチ） . 19	

▲安全に作業するために

安全に作業していただくために次のことを守ってください。
もし怠ると…傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります。

1 はじめに

1-1 取扱説明書をよく読み、機械の使い方をよく覚えてからご使用ください。
トラクタの取扱説明書もあわせてよくお読みください。

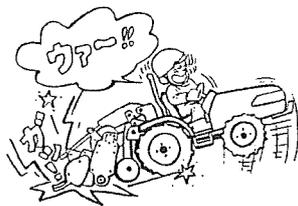
機械の操作を知らずに使用するとたいへん危険です。

1-2 取扱説明書は、いつでも読めるように、機械と一緒に大切に保管してください。

1-3 機械を他人に貸出しされる場合は、取扱説明書も併せて貸出いただき、正しい取扱いをしていただくように、指導してください。



1-4 適応トラクタ以外への装着の禁止
主要諸元表に適応トラクタ馬力を表示していますので熟読の上、適応馬力内のトラクタに装着してください。特にトラクタ馬力が小さい場合はトラクタとの重量バランスが悪くなり事故の原因となります。



1-5 服装には注意を払いましょう
作業中の服装は、ヘルメット、シートベルト、すべらない靴、キチンとした作業服を着用してください。だぶついたズボンや上着など、回転部分に巻き込まれやすい服装は、たいへん危険です。ボタンもキチンととめましょう。



1-6 次のような状態では、運転しないでください。

- ① 飲酒運転
- ② いねむり運転
- ③ 病気や薬物の作用で正常な運転ができないとき
- ④ 若年者
- ⑤ 妊娠中の方

機械の操作に十分熟練し、必要な運転免許証を携帯し、心身ともに健康な状態で運転してください。



1-7 共同作業がある場合は、動作ごとに合図を徹底しましょう。

1-8 使用目的以外の作業や、機械の改造は事故の発生、又は、機械の故障の原因となりますので、決してしないでください。

2 作業の前に

2-1 機械の点検を

各部のボルト、ナットなどのゆるみや、ピンの脱落がないか確認してください。作業中にボルト、ナット、ピンなどが外れますと、作業機やトラクタの破損の原因及び事故の原因となります。



3 トラクタへの着脱

3-1 作業機の着脱及び調整は、平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行いましょう。特に夜間の作業機の着脱は、安全で適切な照明を用いる等、安全に留意して行ってください。

▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

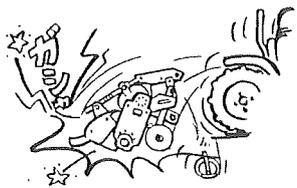
- 3-2 トラクタを移動して作業機を装着する場合には、トラクタと作業機の間に入らないように注意してください。



- 3-3 トラクタと作業機の着脱に際しては、いつでも逃げられる安全な態勢で操作し、このときトラクタは必ずブレーキで止めておいてください。
- 3-4 二人以上で着脱を行う場合は、互いに合図しあいましょう。
- 3-5 ジョイントのノックピンが、確実にPTO軸溝に、又作業機入力軸溝にはまったか確認してください。



- 3-6 取付各部のトメピンが全て確実に装着されているか確認してください。



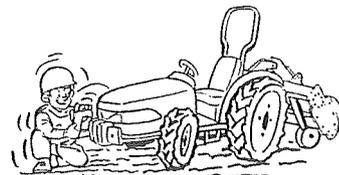
4 防護カバー類の取付け

- 4-1 ジョイントをはじめ、作業機のセフティカバー防護カバー類は必ず取付けてください。

5 装着時の前後バランスの確認

- 5-1 作業機とトラクタとのバランスの確認
作業機を装着すると機体の長さや幅が大きくなり、重量バランスが変わります。確認の上トラクタの前輪に20%以上のウエイトがかかるように、フロントウエイトを取付けてください。なお、作業機に泥が付着して、重くな

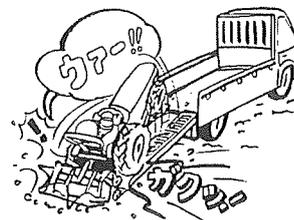
る場合もありますので注意してください。
又、アタッチメント等を取付けて使用される場合もバランスの確認を行い、フロントウエイトを取付けてください。



- 5-2 作業機に他のアタッチメントを取付ける場合は、事前に必ずアタッチメントの取扱説明書を良く読んでください。

6 トラックへの積み・降ろし

- 6-1 積み・降ろしの場所は平坦で安全なところを選びましょう。
- 6-2 すべり止めをした丈夫なアユミ板を確実に固定してください。傾斜角度、平行度を確認してください。
- 6-3 トラックは移動しないようにしっかりと車のサイドブレーキをかけてください。
- 6-4 トラクタの左右のブレーキペダルを連結し、脱輪しないように注意してください。又途中でクラッチを切ったり、変速を中立にしないでください。低速で積み・降ろしをしてください。
- 6-5 作業機を装着しての積み・降ろしはトラクタの重量バランスが変わります。泥の付着等もあり、十分注意して行ってください。



- 6-6 作業機をトラックで運搬する際は、折りたためる箇所は折りたたみ、作業機が動かないように強度が十分あるロープ等で固定してください。
又、積み・降ろしの際にトラックのあおりを不用意に開けると作業機が滑り落ちる恐れがあります。必ず落下防止措置を行ってください。

▲安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

7 一般走行

7-1 特定小型特殊自動車（全幅1.7m以下、全高2.0m以下、全長4.7m以下、且つ最高速度15km/h以下のトラクタ）であっても、作業機を装着したときに何れかの寸法を超える場合は、大型特殊自動車の運転免許（『農耕用に限る』を含む）を取得している必要があります。

トラクタに作業機を装着して道路走行する場合は、道路運送車両法の保安基準を満たしていなければなりません。

トラクタと作業機の組合せで保安基準を満たす処置を行うことで道路走行できるようになります。

詳細内容については一般社団法人日本農業機械工業会ホームページに掲載の『作業機付きトラクタの公道走行ガイドブック』を参照してください。

※ 一般社団法人

日本農業機械工業会ホームページアドレス

<http://www.jfmma.or.jp/>

より詳しい情報を必要とする場合やご質問がある場合は、弊社にお問い合わせください。特に反射ラベル等の法律で表示義務のあるものは道路走行する前に運行前点検を行い、汚損や破損していれば必ず表示内容が他の車両や歩行者から確認できるように処置してください。

7-2 トラクタ・作業機には運転者以外の人を乗せないでください。

7-3 左右のブレーキペダルを連結して走行してください。



7-4 作業機の回転を止めて走行してください。

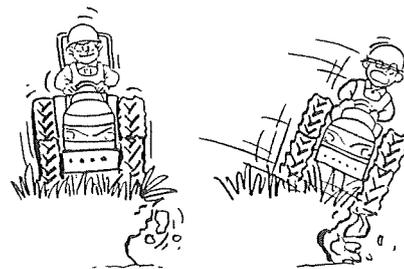
7-5 作業機の落下速度調節レバーを締めて、必ず油圧ロックをして走行してください。

7-6 必要以上の高速運転、急発進、急ブレーキ、急旋回をしないでください。

7-7 旋回するときは、作業機に人や物が接触しないように注意してください。

7-8 作業機は左右がトラクタの機体幅より広い場合、走行時は十分注意してください。移動時は作業機の折りたたむための箇所は折りたたみ走行してください。又スタンドがついている場合も必ず外してください。

7-9 路肩に草が茂っている所を走行するときは特に路肩の強度に気を付けてください。



7-10 坂道では、クラッチを切ったり、変速を中立にしないでください。

7-11 坂道では、スピードを落とし、低速で走行してください。

7-12 坂道では、エンジンプレーキを使用し、急ブレーキをかけないでください。

8 圃場への出入り

8-1 圃場に入るときは、必ず前進で速度を下げて、うねや段差に対して直角に進んでください。

8-2 圃場から出るときは、傾斜しているうねはバックで上るか、又は丈夫なアユミ板を使用してください。

8-3 うねや段差に対して斜め方向に進むと、横滑りや転倒する危険があります。作業機を低くして重心を下げ、直角に進めてください。

9 作業をしているとき

9-1 いねむり運転、わき見運転をしないようあらかじめ体調を整えてください。

▲安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

- 9-2 回転部分等、動く所には触れないでください。
- 9-3 作業中は、まわりに人を近寄らせないでください。特に子供には十分注意してください。補助作業者がある場合は、動作ごとに合図をかわしてください。



- 9-4 運転者が運転位置をはなれて作業機を調整する場合、又、爪軸等への草やワラのからみ付きを取りのぞく場合等は、必ずトラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、かつ、PTO軸への動力の伝達が切れていることを確認した上で行ってください。



- 9-5 作業機の下にもぐったり、足をふみこんだりしないでください。



- 9-6 作業機のカバーは、土礫が飛散ないように調整してください。



- 9-7 ぬかるみにはまっても作業機は絶対に外さないで、他の車に引き上げてもらってください。牽引点は低くしてください。

10 作業中の点検

- 10-1 作業機の点検を行うときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、かつ、PTO軸への動力の伝達が切れているこ

とを確認した上で行ってください。又、油圧ロックも必ず行ってください。



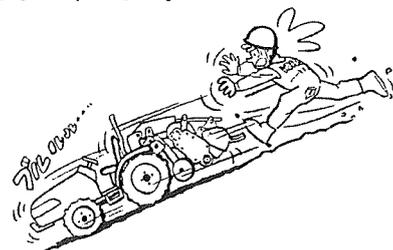
- 10-2 点検のために外した安全カバーは、必ず元の通りに取付けてください。



- 10-3 ラジエータ、マフラは高温になりますので、ヤケドに注意してください。
- 10-4 点検整備に必要な工具類は、適切な管理を行い、正しい使用をしてください。

11 トラクタを止めるとき

- 11-1 平らな場所に止めてから、作業機を降ろしてエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてください。
- 11-2 傾斜地に止める場合は、タイヤに必ず車止めをしてください。



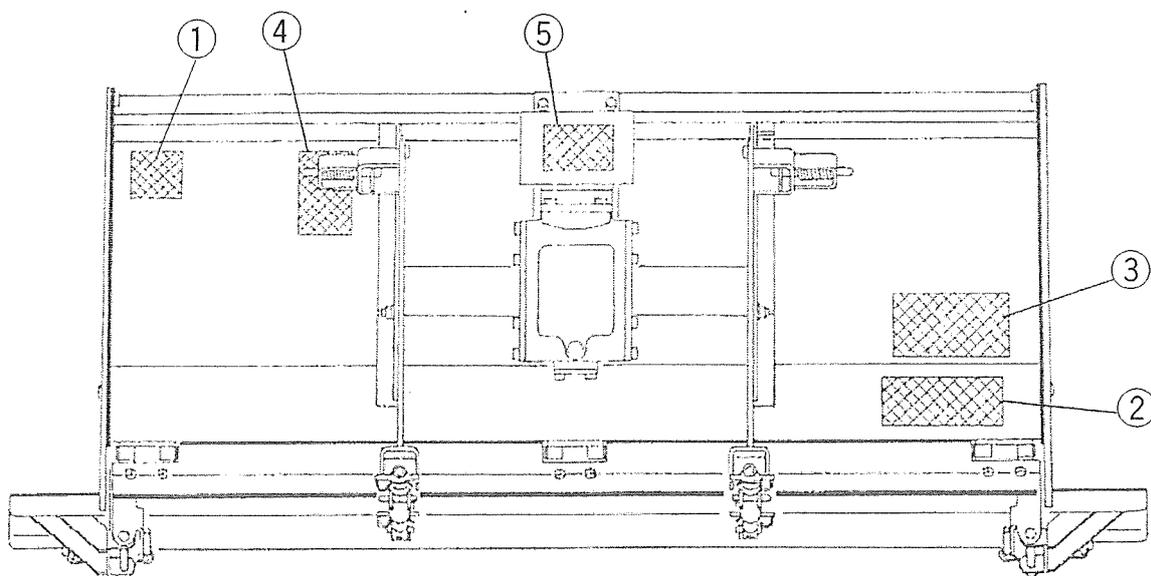
12 その他

- 12-1 作業機指定のPTO回転数を守ってください。低速回転用の作業機を高速回転で使用すると作業機が異常作動し危険です。
- 12-2 トラクタのエンジン始動時は、作業機が下がっていることを確認してください。作業機が不意に下がることもあり危険です。

安全ラベルの取扱い

- ① いつも汚れや泥をとり警告がハッキリと見えるようにしてください。
- ② 安全ラベルが損傷したり破損した時は、新しいものと交換してください。
- ③ 安全ラベルを貼ってある部品を交換した時は、必ず新しい部品に、取外した部品と同じ場所に安全ラベルを貼ってください。

コバシ深耕ローターには、次の安全ラベルが貼ってあります。よくお読みになって、理解した上で作業してください。



①

コードNo.9992074

▲ 警告

ロータリーの回転部に接触すると、ケガをするおそれがありますので、回転部に近づかないでください。 9992074

④

コードNo.9992127

▲ 危険

<ul style="list-style-type: none"> ● エンジンまたはジョイントが回転中は、体を近づけないでください。 ● 巻き込まれて死傷する恐れがあります。 <p style="text-align: right;">9992127</p>

⑤

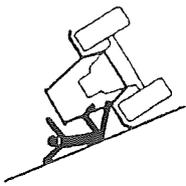
コードNo.9992126

▲ 危険

<ul style="list-style-type: none"> ● セフティカバーは、常に装着して使用してください。 ● 巻き込まれて、死傷するおそれがあります。 <p style="text-align: right;">9992126</p>

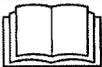
②

コードNo.9992086

▲ 警告

<ul style="list-style-type: none"> ● 転落事故を防ぐためには、発進や登坂時にトラクタの前輪が浮き上がらないように充分な前部ウエイトを取付けてください。 ● 作業機にアタッチメントを装着する時には、特にバランスを注意するとともに、アタッチメントの取扱説明書をよく読んで、適切な処置や調整を行ってください。 <p style="text-align: right;">9992086</p>

③

コードNo.9992087

▲ 注意

使用前に取扱説明書をよく読んで安全で正しい作業をしてください。
<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業機を着脱するときは、トラクタと作業機の間立たないでください。 2. エンジン始動時や作業中は、周囲の安全を確認し、人がいないか、特に子供には注意し、近づけないようにしてください。 3. 作業機の上に人をのせないでください。 4. 点検整備時には、必ずエンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、油圧降下防止用ストップバルブを締めてから行ってください。また、絶対に作業機の下に入って作業をしないでください。 5. ジョイントのノックピンが確実にロックされていることを確認してください。 <p style="text-align: right;">9992087</p>

サービスと保証について

1 保証書について

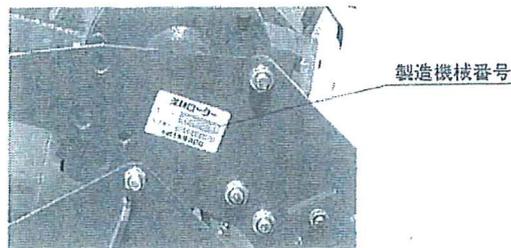
コバシ深耕ローターには保証書が添付してあります。保証書はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。保証内容は保証書をご覧ください。お読みになった後は大切に保管してください。

2 アフターサービスについて

機械の調子が悪いときに点検、処置してもなお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げ頂いた販売店、農協、弊社営業所までご連絡ください。

その際

- 機械の型式名と製造機械番号
- ご使用状況（作業速度、PTO軸回転速度はいくらで、どんな作業をしていたときに）
- どのくらい使用されましたか（約〇〇アール・約〇〇時間使用后）
- 不具合が発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教えてください。



補修用部品の供給年限について

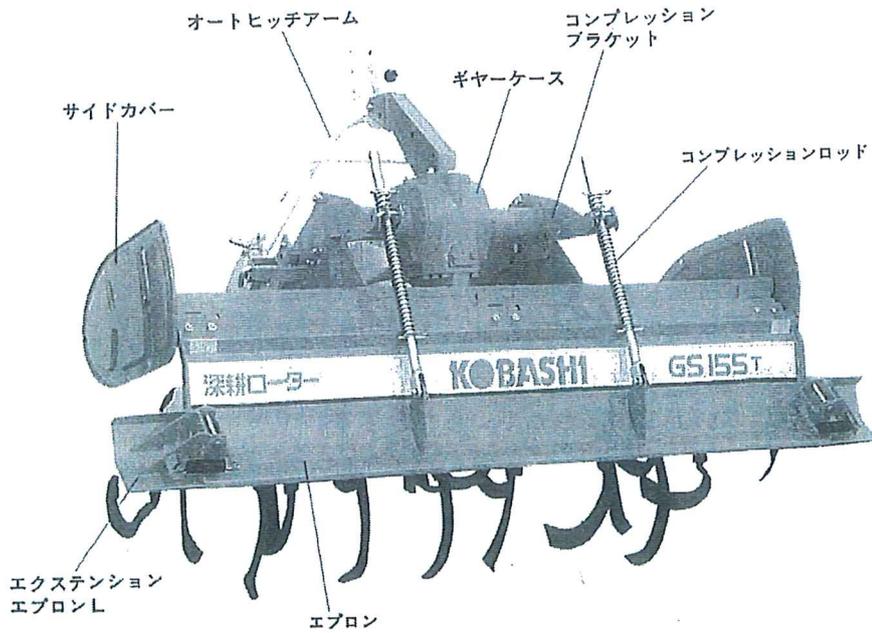
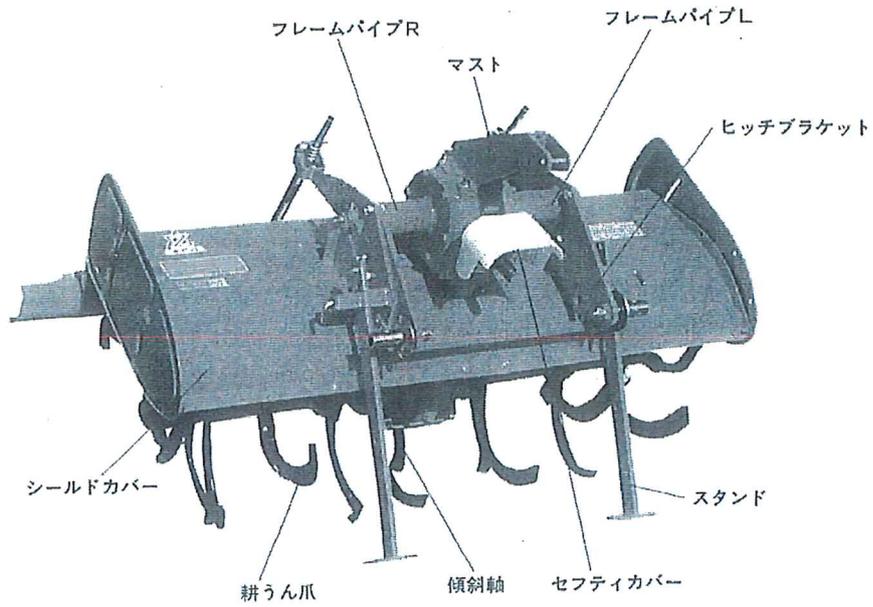
この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打切り後9年といたします。

従いまして、その後のご注文に対しては、在庫限りの供給とさせていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買求めください。市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

各部の名称



深耕ローターの組立（日農工標準オートヒッチ）

作業機は鉄枠梱包されています。別冊の『開梱・組付け要領書』に従って開梱・組付けしてください。

深耕ローターの組立（日農工特3Pヒッチ）

作業機は鉄枠梱包されています。別冊の『開梱・組付け要領書』に従って開梱・組付けしてください。

ジョイントの取付準備

取扱上の注意

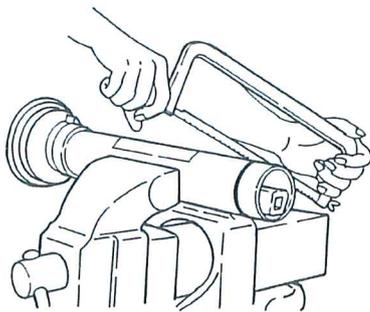
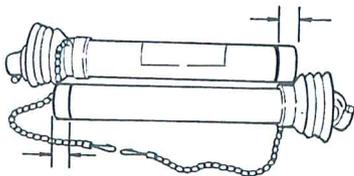
長過ぎるジョイントを装着しますとトラクタのPTO軸と作業機の入力軸を突き上げて破損させます。又、短かすぎますと、ジョイントのカミ合わせが不足してチューブが破損します。

お願い

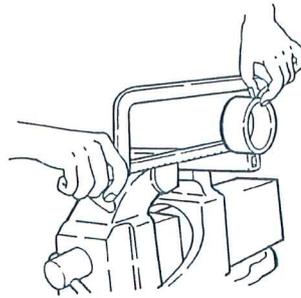
標準のジョイントがトラクタによっては、長い場合があります。トラクタ別装着表 (P30~) を参照の上、切断長さを確認の上、チューブとセフティカバーのオス側メス側を切断してください。

1 切断方法

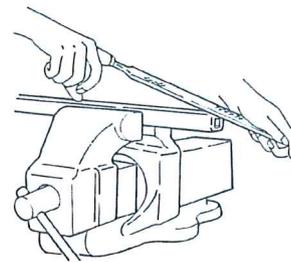
1. 長い分だけセフティカバーをオス、メス両方切りとります。



2. 切りとったセフティカバーと同じ長さでチューブをオス、メス両方切断します。



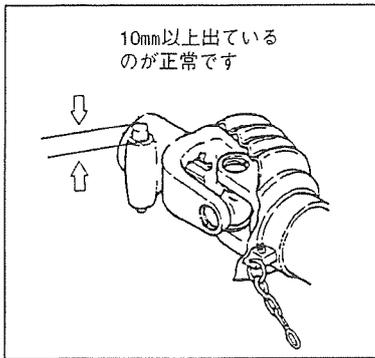
3. 切り口をヤスリでなめらかに仕上げ、切り粉を取除き、グリスを塗布して、オス、メスを組みあわせます。



4. ジョイント切断時にセフティカバーを取外した場合は、必ずジョイントに外したセフティカバーを取付けてください。

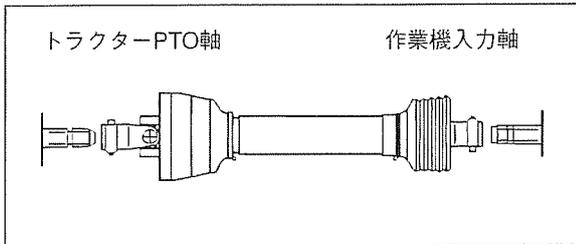
2 取付方法

1. ジョイントのノックピンを押しながら軸に挿入、軸の溝にノックピンをはめ込み抜け止めをします。ノックピンが正確に軸溝にはまっているか確認してください。
ピンの「頭が10mm以上」出ているか、トラクタ側と作業機側のノックピンを確認してください。



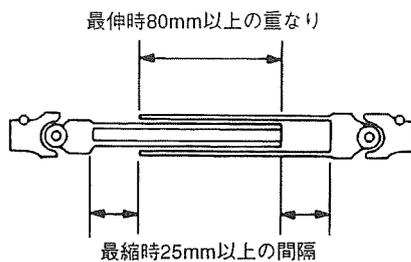
2. 広角ジョイントの取付方法

3セットの時に、広角ジョイントを取付ける場合には、必ず広角側をトラクタPTO軸に取付けてください。

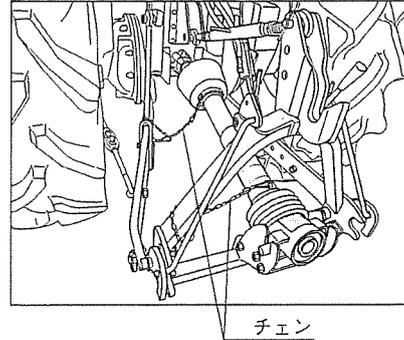


3 長さの確認

1. トラクタの3点リンクにオートヒッチを取付け、トップリンクの長さを指定の長さに調節してください。
(3セットの場合は、作業機を装着してから次の確認を行います。)
2. 油圧をいっぱいに下げて、4セットジョイントをセットしてください。
3. 徐々に油圧を上げて、ジョイントが縮んだ状態でも、軸を突かないことを確認してください。
4. 油圧を上下してカバーのスキマを確認してください。



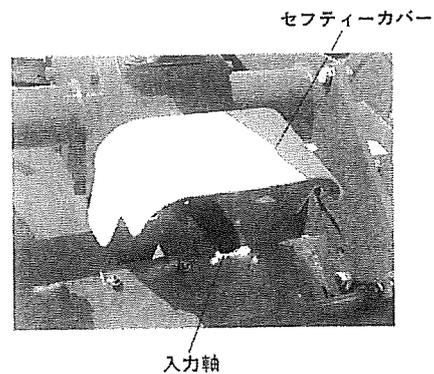
5. ジョイントセフティカバーのチェーンを固定し、回り止めをします。この時油圧をいっぱい下げてもチェーンが緊張しないようにたるみを持たせてください。



4 入力軸セフティカバーの取付け

⚠ 危険

セフティカバーを取外して使用すると、死傷することがありますので、必ず取付けたままで使用してください。

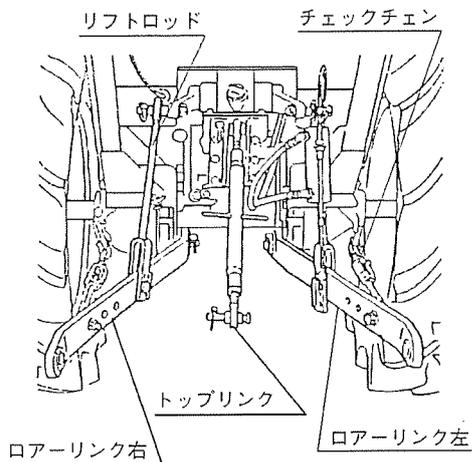


トラクタへの装着 (日農工標準オートヒッチ)

1 装着前の準備

1. トラクタの準備

本機の装着方法は標準3点リンク式のヒッチです。もしトラクタに特殊3点リンク式のロータリーを装着されている場合は、トップリンクブラケットを外し、トップリンクを標準3点リンク用の長いトップリンクと付け替えてください。又、ドローバーがジョイントに干渉する場合は、ドローバーの位置を変えるか取外しをしてください。

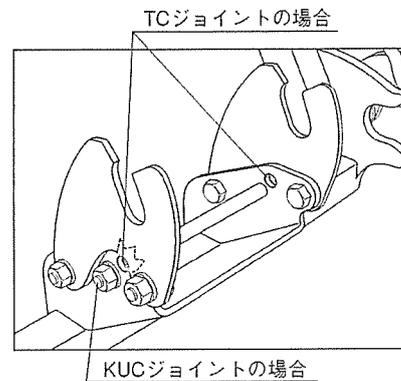
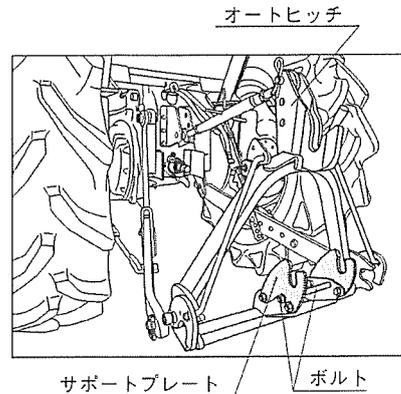


取付位置は本書のトラクタ別装着寸法表 (P30~) を参照の上、トップリンク長さやリフトロッド位置を確認、取付けてください。

2. オートヒッチの準備

4セットで使用する場合は、オートヒッチアームにジョイントをセットするサポートプレート、及び、ボルトが確実に取付けてあることを確認してください。

3セットの場合はサポートプレート、ボルトがないことを確認してください。

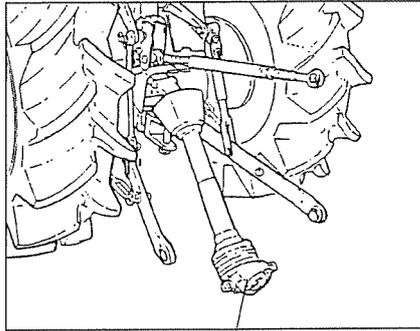


3. オートヒッチの取付け

▲ 注意

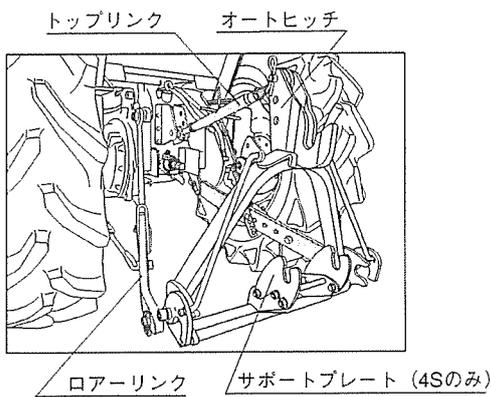
トラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、PTO軸への動力が切れていることを確認してから作業してください。

- ① トラクタのポジションコントロールレバーを下げ、ローリンクをいっぱいまで下げます。トラクタのPTO軸にジョイントの広角側を取付け、作業機入力軸側は地面に置いてください。



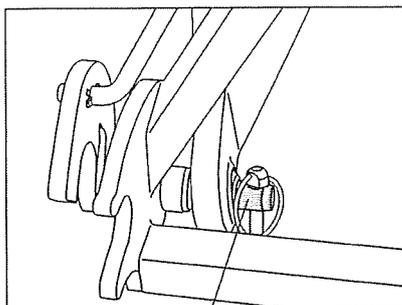
作業機入力軸側

- ② オートヒッチをトラクタのトップリンクに取付けます。
 トップリンクピンはトラクタの付属品を使用してください。

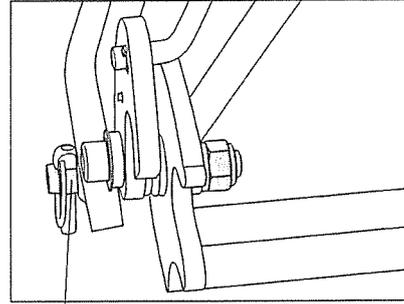


- ③ 左右のロアーリンクにオートヒッチのヒッチピンを取付けてください。トラクタの3点リンク規格により、内側セットと外側セットがありますので規格に合わせてセットしてください。

JIS 0 …… 内側セット
 JIS 1 …… 外側セット



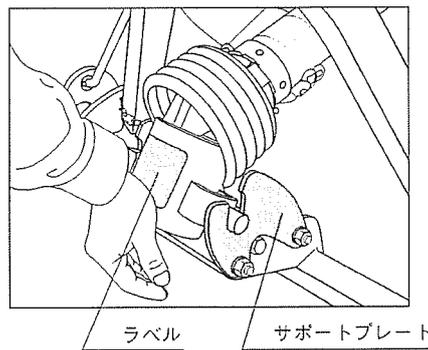
ロアーリンクピン (0形)



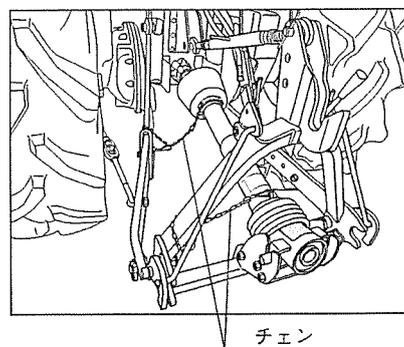
ロアーリンクピン (I形)

トラクタのPTO軸にジョイントの広角側を取付けます。

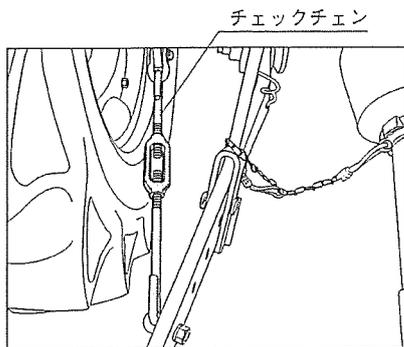
- ④ ジョイントのラベル面を上にし、手でジョイントを折り曲げ、軸の細い部分からサポートプレートの長穴にセットしてください。(4セットのみ)



- ⑤ ジョイントセフティカバーのチェンを固定し、回り止めをしてください。



- ⑥ チェックチェンを張ってオートヒッチをトラクタの中心に合わせてください。また、ロアーリンクの左右の高さも均等にしてください。



▲ 注意

装着が終わりましたら、各部のトメピンや
トップリンクピンの抜け止めが確実になさ
れていることを確認してください。

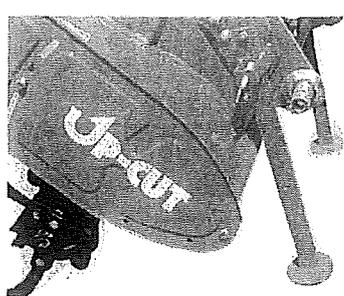
2 トラクタへの装着

▲ 注意

1. 平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. 夜間の場合は適切な照明を用いてください。
3. トラクタと作業機の間には人が入らないよう注意してください。
4. 二人作業の場合は互いに合図しあって作業をしてください。

1. 作業機を装着姿勢にします

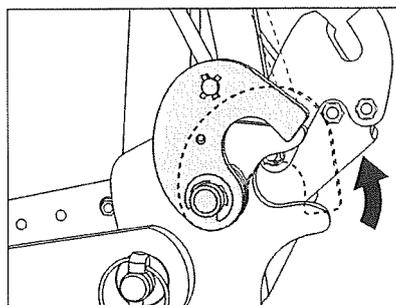
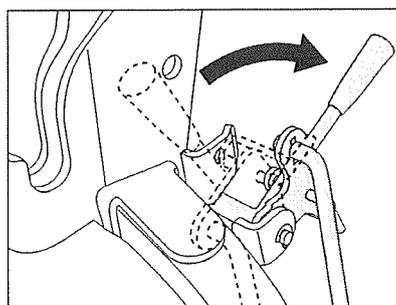
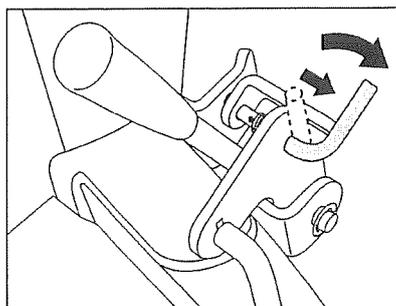
作業機を持ち上げてスタンドを最下げの位置で固定します。



2. オートヒッチフックのロック解除

装着前に、ロックピンを引いて、イラストのようにロックが解除される位置へセットしてください。

レバーをトラクタ側に倒し、フックが開いた状態にしてください。



▲ 注意

レバーを倒した状態にしたまま、油圧を上下しますとレバーとトラクタが干渉する場合がありますので、干渉に注意して装着を行ってください。

干渉する場合は、干渉しない位置まで下げしてからレバーを操作してください。

3. 取付け

- バックしてヒッチを合わせる

トラクタのPTOの変速はニュートラルにしておいてください。

オートヒッチを下げて、トラクタをゆっくり作業機に近づけ、作業機のマスト先端とオートヒッチのトップを合わせます。

この時トラクタと作業機が直角になるようにしてください。

4. フックを合わせてリフトアップ

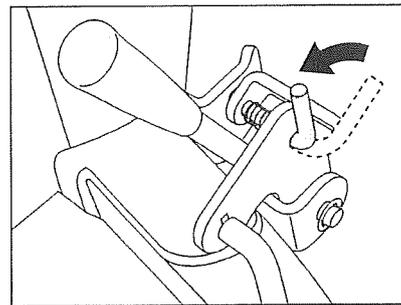
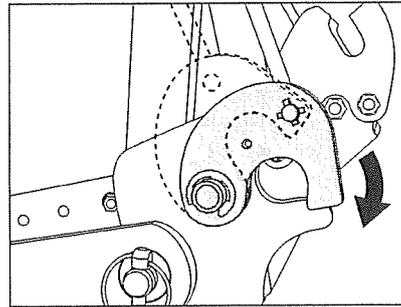
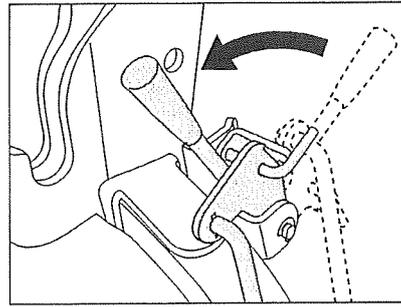
ポジションコントロールレバーを「上げる」にして、作業機をゆっくりとリフトアップすると、オートヒッチのローアークとジョイントのクラッチ部は自動的に接続、ロックされます。ジョイントが噛み合わなかったりした場合は、ポジションコントロールレバーを下げて一度前進、再度最初からやり直してください。

5. フックを閉じてロック

▲ 注意

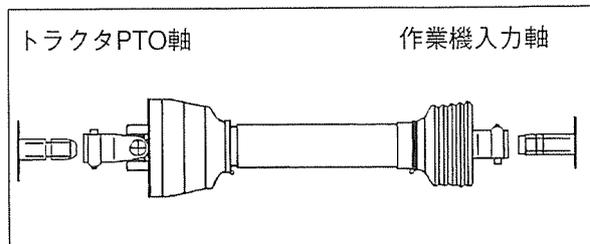
作業が終わって作業機を取外すまでは、オートヒッチのレバーには絶対に手をふれないでください。ロックが解除し作業機が外れます。

オートヒッチアームのフック部に作業機のガイドカラーが両方とも入っていることを確認してから、オートヒッチアームのレバーを作業機側に倒してフックを閉じます。レバーについているロックピンをイラストのようにオートヒッチアームのロックプレートのように作業機側の穴に挿入して、不用意に作業機が外れないように確実にロックしてください。



6. 広角ジョイントの取付方法

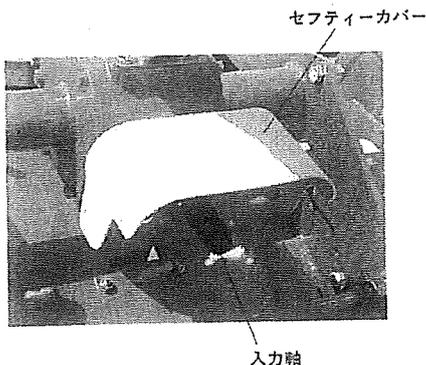
3セットの時に、広角ジョイントを取付ける場合には、必ず、広角側をトラクタ側PTO軸に取付けてください。



ジョイントセフティカバーのチェンを固定し、回り止めをします。この時作業機をいっぱい下げてもチェンが緊張しないようにたるみを持たせてください。

▲ 危険

セフティカバーを取外して使用すると、死傷することがありますので、必ず取付けたままで使用してください。



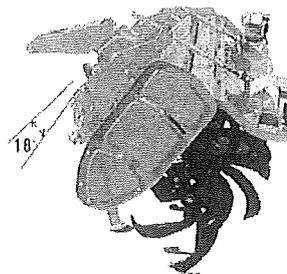
7. スタンドは取外してください。

取扱上の注意

1. 最初の装着時には、作業機をゆっくり上げながら、トラクタと作業機が干渉しないか確認してください。特に、キャビン付きトラクタの場合には、背面のガラスを割らないように注意してください。
2. トラクタによっては、スイッチ一つで自動で最上部まで上昇する機構がありますが、必ず手動で干渉の有無を確認してから使用してください。
又、作業機が勢いよく上がるため10cm以上の余裕を持って上げ規制をしてください。
3. ポジションコントロールレバーを徐々に上げて、ジョイントが一番縮んだ状態でもジョイントが突き上げないことを確認してください。
4. トップリンクやロアーリンクの取付位置、及びリフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも干渉の有無を確認してください。
5. 左右の水平調節についても注意してください。

③ 装着後のトラクタとの調整

1. チェックチェンの調整（左右の振れ）
作業機を持ち上げた状態で、作業機の入力軸とトラクタのPTO軸を合わせて、左右の横振れを確認して、横振れが10mm以内になるように、左右均等にチェックチェンを張ってください。
2. トップリンクの調整
作業機を地面に接地させ横側から見て、PICシャフトが前傾18°となるようにトップリンクを調整をします。
(但し、耕深400mmの時、PICシャフトはほぼ水平)



▲ 注意

トップリンクの調整は、作業機を接地させて行ってください。トップリンクが抜けて作業機が落下することがあり、危険です。

3. リフトロッドの調整（左右の水平）
作業機を持ち上げ、後方より見て左右が水平になるように、トラクタのレベリングハンドル、又は、油圧スイッチを操作し、調整してください。
4. ジョイントの異音について
ジョイントと作業機の入力軸とが直線に近いほど異音は少なくなります。

取扱上の注意

作業機を最上位置に上げた状態で回転させますと、異音が発生し、ジョイントに無理がかかり、損傷の原因になります。
回転しても、振動や、音が出ない位置にポジションコントロールレバーのストッパーをセットしてください。

4 トラクタからの取外し

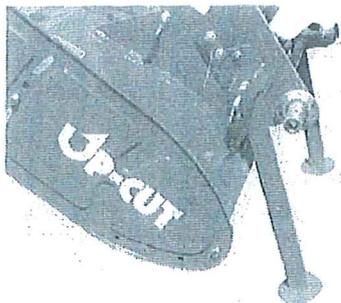
▲ 注意

作業機を取外す場合は、平坦で地盤のしっかりした所で、取外しのためのスペースが十分とれる所で行ってください。

1. スタンドの取付け

作業機を持ち上げてスタンドを最下げの位置で固定します。

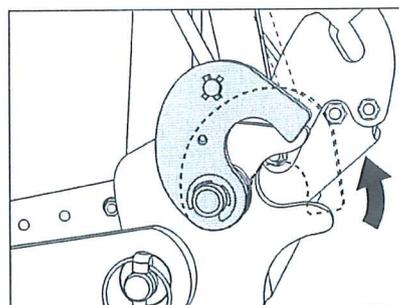
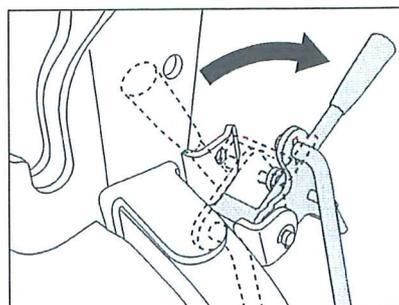
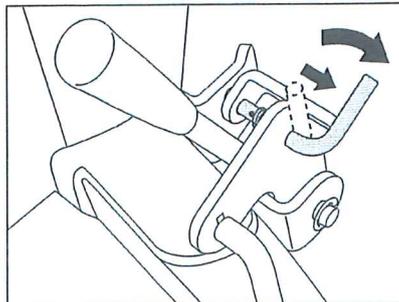
(装着時と同じ状態にします)



2. オートヒッチフックのロック解除

作業機をリフトアップしてからロックピンを引いて、イラストのようにロックが解除される位置へセットしてください。

レバーをトラクタ側に倒し、フックが開いた状態にしてください。



ポジションコントロールレバーを「下げる」にして、作業機を下げるとローアーク部は外れます。次にポジションコントロールレバーを下げながらトラクタをゆっくり前進させると作業機は外れます。

◆外れない場合は、場所が平坦でないとか、トラクタがまっすぐ前進していないなどの原因がありますので、再度動作をやり直してください。

トラクタへの装着（目農工特殊3Pヒッチ）

GS-5-S・GS-5-T・GS-5-U・GS-5-MU

いずれの型式も、トラクタに装着されている純正ロータリーと同様の手順で、作業機の取付け、取外しができます。又、純正ロータリーのオートヒッチ、トップリンク、ジョイントがそのまま使用できます。

◆メーカーによりオートヒッチの呼び名が異なりますので注意してください。

▲ 注意

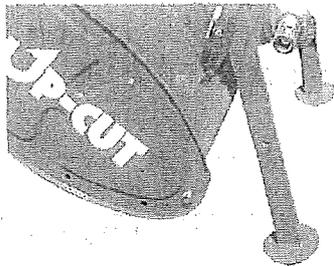
1. 平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. 夜間の場合は適切な照明を用いてください。
3. トラクタと作業機の間には人が入らないよう注意してください。
4. 二人作業の場合は互いに合図しあって作業をしてください。

1. トラクタの準備

ローアリンク、リフトロッドは、純正ロータリーと同じ位置（特3P）で、又、オートヒッチはローアリンクに取付けた状態で本作業機は装着できます。

2. 作業機への準備

作業機のスタンドを最下げの位置で固定します。



作業前の点検

作業機の正常な機能を発揮させるため、又、故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。下記の始業点検は毎日欠かさず行ってください。

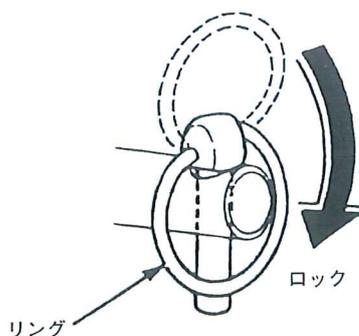
⚠ 注意

1. 点検は平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. トラクタのエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
3. 作業機を地面におろしてから行ってください。作業機を持ち上げた状態で点検する必要がある場合は、油圧をロックし、落下防止をするとともに、台などを耕うん軸の下に置き、作業機が絶対落下しないようにしてから行ってください。

1 各部のボルト・ナットのゆるみ

各部のボルト・ナット類に緩みはないか、増し締めしながら点検してください。特に耕うん爪取付ボルトは緩み易いので点検が必要です。尚、新品の場合は使用1時間で点検を行ってください。

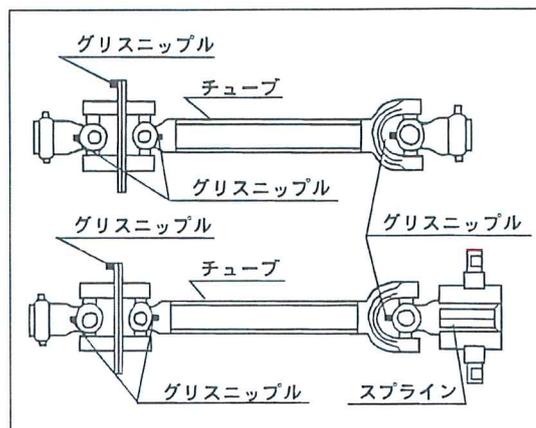
又、ピン類も全てそろっていることを確認してください。又、リンチピンのリングが確実にロックされていることを確認してください。



2 ジョイントへのグリスアップ

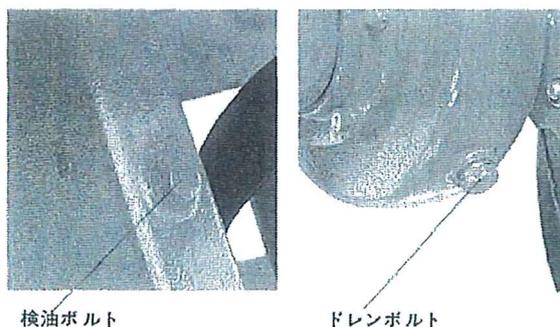
ジョイントの各部にグリスアップしてください。

- ① グリスニップル
- ② スプライン



3 オイル量

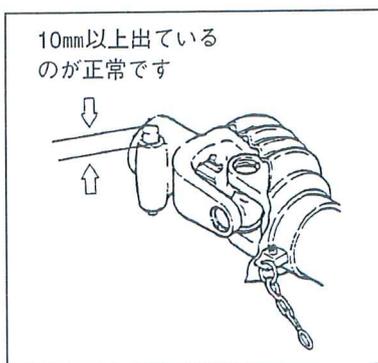
チェンケースの後部に検油ボルトがありますのでゆるめてオイルがあるか確認してください。ボルト面より少ない場合はボルト面まで補給してください。(ギヤオイル#90)



点検する時は、ローターをトラクタに装着したまま水平な地面においておこなってください。

4 ジョイントのノックピン

ノックピンが正確に軸溝にはまっているか確認してください。ピンの「頭が10mm以上」出ているか、トラクター側、作業機側のノックピンを確認してください。



5 空転、暖機運転

作業前には空転させ、各部より異音が発生していないか確認してください。又、暖機運転を5～10分行ってください。

移動、圃場への出入り

⚠ 警告

1. 移動の際は、作業機はセンターセットに必ず直して走行してください。オフセットのままですと、片側にはみ出していますので、バランスが悪く、思わぬ事故につながるおそれがあります。
2. 移動の際は、作業機を持ち上げ、油圧ロックをし、作業機の回転を止めてください。
又、チェックチェンも確実に張れているか確認してください。
3. トラックへの積み込み、坂の登りに、トラクタの前輪が浮き上がるとハンドルが利かず危険です。フロントウエイトを着けて作業機を下げて登ってください。
4. 前後、左右に気をくばり、安全を確認しながら走行してください。高速運転、急発進、急ブレーキ、急旋回はしないでください。
5. 圃場に入るときは、必ず前進で速度を下げて、畦や段差に対して直角に進んでく

ださい。畦畔が高い時は、丈夫で滑り止めのあるアユミ板を使用し、傾斜角が14度以下になるようにしてください。

上手な作業のしかた

▲ 注意

1. 運転中は危険ですから、トラクタ及び作業機の周囲には、補助作業員や、他の人を絶対に近づけないようにしてください。
2. 作業機を調整、整備する場合や、爪軸等への草、ワラのからみ付きを取り除く場合は、必ずトラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、PTO軸への動力の伝達が切れていることを確認した上で行ってください。
3. 畦畔の近くでの作業は、作業機を畦に引っかけないように、ゆっくりと注意して行ってください。
4. 傾斜地での急旋回は転倒の危険があります。ゆっくりと注意して行ってください。

① 作業速度と耕うん軸回転数

作業目的と土地条件に合わせてトラクタの車速を決めてください。

下記の表は作業のめやすとして参考にしてください。

1. 作業速度

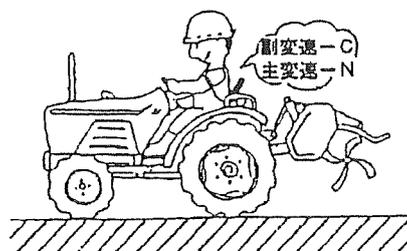
耕うん深さ	30 cm	35 cm	40 cm	45 cm
トラクタ速度 (km/h)	0.5~1.0	0.5~0.7	0.2~0.6	0.2~0.5

2. 耕うん軸回転数

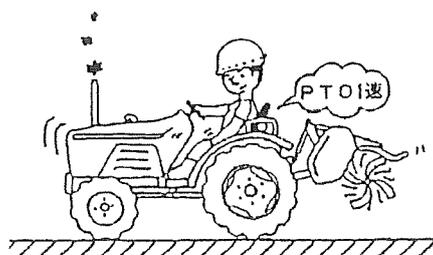
PTO変速レバーは1速に入れ、PTO軸回転数が540r.p.mになるようエンジン回転を保持して作業を行います。

深耕ロータリーの手順

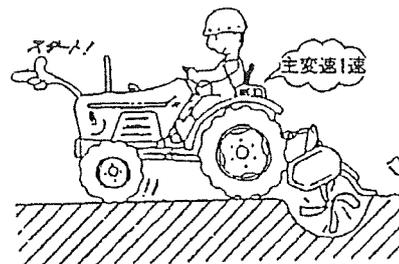
- ① 副変速レバーをC クリーブに入れ、主変速レバーはNニュートラル位置にします。



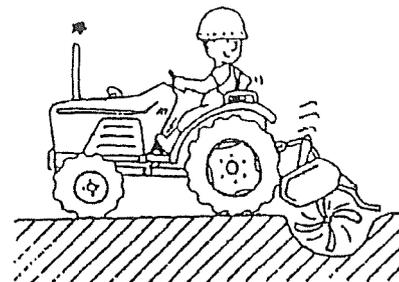
- ② PTOレバーを1速に入れ、エンジン回転を上げます。



- ③ ブレーキペダルを踏み、油圧コントロールレバーでロータリーを徐々に降ろし定めた深さまで深耕してください。



- ④ 次に主変速レバーを1速に入れて発進してください。

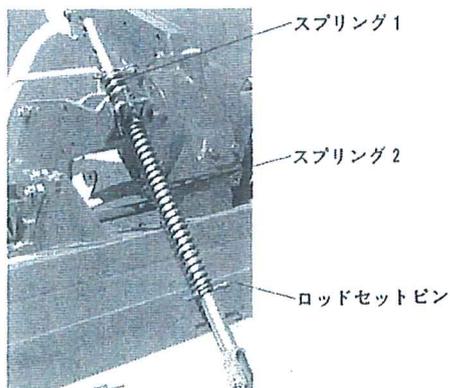


取扱上の注意

1. 逆転での作業はしないでください。
2. 土地条件に応じた作業速度、PTO軸回転数、深さを選んでください。尚、石の多い圃場では、作業速度は遅くし、PTO軸回転数も下げて使用してください。

2 エプロンの調節

1. ロッドセットピンを差し込む穴をかえて、調節バネでエプロンを押さえる力を調整します。縮めると……エプロンが強く地面を押さえる
伸ばすと……エプロンの押さえは弱くなる



2. ロッドセットピンを取外してスプリングをフリーにすると、エプロンの加圧はなくなります。

3 作業操作

作業前にロータリスタンドをあげて（スタンドの下の穴）ピンを差し込みます。

1. 副変速レバーをⒸクリーブに入れ、主変速レバーはⒺニュートラル位置にします。
2. PTOレバーを1速に入れ、エンジン回転を上げます。
3. ブレーキペダルを踏み、油圧コントロールレバーでロータリーを徐々に降し、定めた深さまで深耕してください。
4. 次に、主変速レバーを1速に入れて発進してください。

4 エクステンションエプロンの使用

畑の碎土作業等、平均性を向上させたい時に使用してください。



耕うん爪の取付け

1 耕うん爪及び取付ボルトの種類と本数

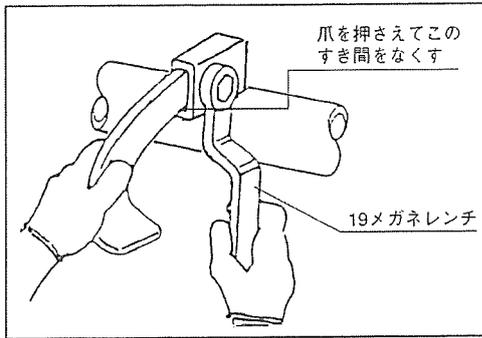
規 格			1 台 分 数 量		
			GS105	GS125	GS155
ナ タ 爪	J 3342	R	7	8	10
		L	7	8	10
ク ロ ス 爪	J 3342 X	R	1	1	1
		L	1	1	1
偏 心 ク ロ ス 爪	J 3342 CP	R	1	1	1
		L	1	1	1
偏 心 爪	J 3342 SP	R	1	1	2
		L	1	1	2
取 付 ボ ル ト	M12×30 P1.5 8T (B=19)		16	18	24
	M10×30 P1.5 8T (B=17)		4	4	4

▲ 注意

1. 平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりしたところで行ってください。
2. トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、油圧ロックを行い、かつ、台などを作業機の下に置き、作業機が落下しないようにしてから行ってください。
3. エブロンをしっかりと固定して落下しないようにしてから行ってください。
4. ボルト、ナットを緩めたり、締め付ける場合は、19のメガネレンチが確実に入った状態で作業してください。
5. 作業は丈夫な手袋を着用して行ってください。

- ◆爪の交換は、一度に全部はずして交換するのではなく、一本ずつはずして同じ形状刻印の爪を取り付けていくと、配列の誤りはなくなります。
- ◆爪が摩耗してきますと、作業状態が悪くなってきます。早めにコバシ純正爪と交換してください。

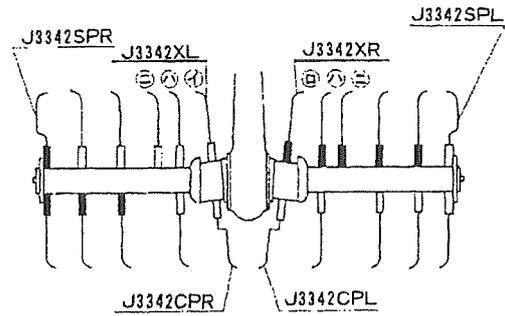
2 耕うん爪取付方法



取扱上の注意

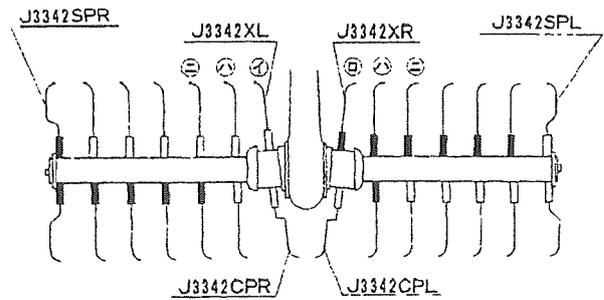
1. 爪の配列を誤りますと、異常な振動が発生したり、又、仕上がりが悪くなりますので注意してください。
2. 爪はしっかりと締め付けてください。新しく交換した場合は、ゆるみやすいので作業1時間で増し締めをしてください。

GS 125 爪配列



ロータリを後方より見る。㊦と㊧は 16° のズレ、㊨と㊩は 98° のズレとなります。黒印のブラケットは六角穴が左側です。

GS 155 爪配列



ロータリを後方より見る。㊦と㊧は 16° のズレ、㊨と㊩は 116° のズレとなります。黒印のブラケットは六角穴が左側です。

保守・点検

機械を長持ちさせるためには、普段の保守、点検が大切です。

▲ 注意

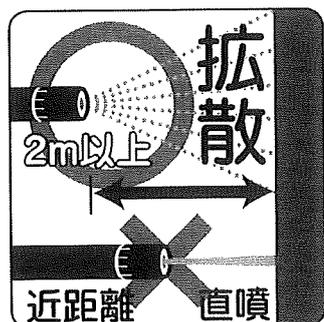
トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止して、油圧ロックを行い、かつ、台等を作業機の下に置き、作業機が落下しないようにしてから行ってください。

1. 作業終了後は、きれいに水洗いを行い、水分を拭き取っておいてください。

▲ 注意（高圧洗車機）

機械を損傷させないように洗車ノズルは拡散にし、2 m以上離して洗車してください。もし、直射や不適切に近距離から洗車すると機械の破損・損傷・故障や事故の原因になります。

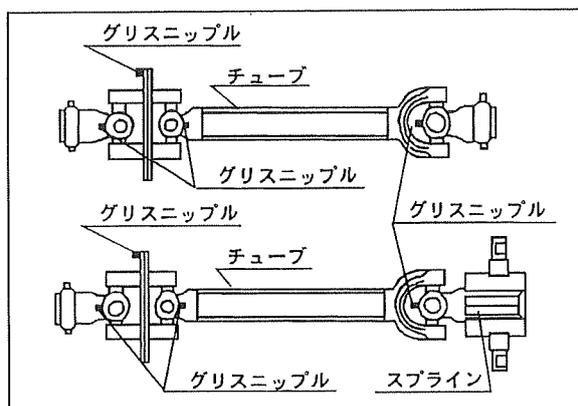
- 例
- 1) シール・ラベルの剥がれ
 - 2) 樹脂類（カバーなど）の破損
 - 3) 塗装・メッキ皮膜の剥がれ



2. グリスの給油

- ① ジョイントは分解して、スリーブのかみ合い部分に、グリスを塗布してください。又、同時にグリスニップルにも適量注入してください。

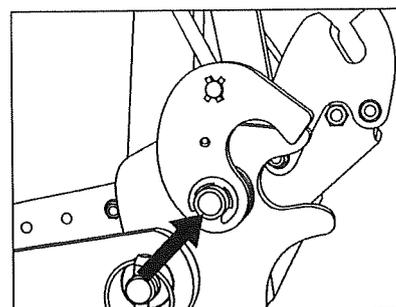
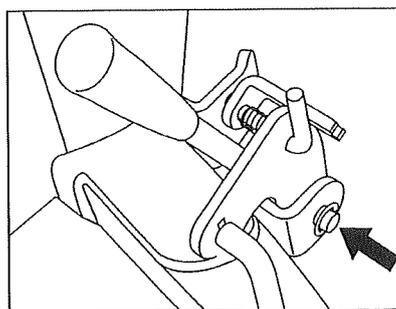
- ② トラクタのPTO軸と作業機の入力軸へもグリスを塗布し、格納する場合はキャップをかぶせて、サビないようにしてください。



取扱上の注意

特に4セットジョイントの場合は、スプライン部がサビたり、キズついたりしますと、装着ができなくなりますので、必ず掃除を行い、グリスを塗布し、ゴミがかからないようにしてください。

- ③ オートヒッチのフックの支点部分にオイルを適量塗布してください



3 給油と交換

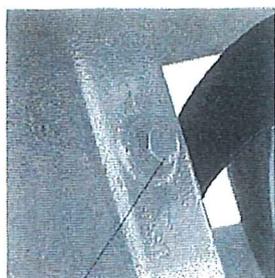
下の基準で実施してください。

点検項目	種類	オイル量	交換時間	
			1回目	2回目
チェーンケース	ギヤオイル #90	2.5ℓ	50時間	150時間毎

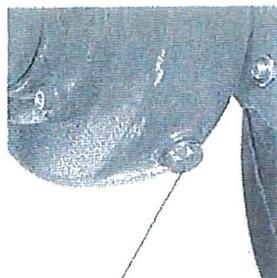
チェーンケースのオイル交換の仕方

ドレンボルトを外してオイルを出します。オイルが抜けたら、ドレンボルトをしっかりと締め付けてください。ゴムパッキンに変形や損傷がある場合は速やかに交換してください。

ギヤオイルを給油口から規定量 (2.5ℓ) 入れてください。



検油ボルト



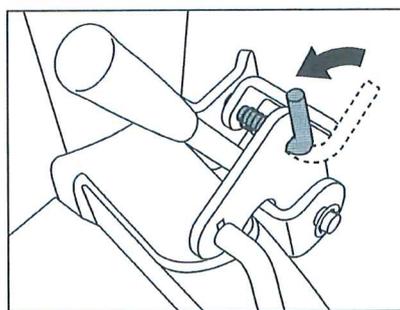
ドレンボルト

4. オイルシールの組み替え

整備などの目的でチェーンケース等を分解される場合は、必ず新しいオイルシール、ゴム付座金パッキン、液状ガスケットと交換してください。オイルもれの原因になります。液状ガスケットはスリーボンド1208相当品を使用してください。

保管・格納

1. 平坦で地盤のしっかりした、屋根のある場所に格納してください。
2. オートヒッチを作業機に取り付けて保管する場合は、レバーについているロックピンをイラストのようにオートヒッチアームのロックプレートの穴に挿入して、不用意に作業機が外れないように確実にロックしてください。



3. 格納後はみだりに子供等が触れないような処置をしてください。

主要諸元

型 式		GS 125T- 4S 3S 0S	GS 155T- 4S 3S 0S
駆 動 方 式		センタードライブ方式 (正転)	
機 体 寸 法	全 長 (mm)	1290	
	全 幅 (mm)	1280	1580
	全 高 (mm)	1325	
重 量 (kg)		250 (230)	270 (250)
適 応 ト ラ ク タ (PS)		22~28	25~28
装 着 装 置 の 種 類		日農工標準オートヒッチ 0・I形	
標 準 耕 幅 (cm)		120	150
標 準 耕 深 (cm)		30~45	
標 準 作 業 速 度 (km/h)		0.2~1.0	
入 力 軸 回 転 数 (r.p.m)		540	
耕 う ん 軸 回 転 数 (r.p.m)		106	
耕 う ん 爪 取 付 方 法		ホルダータイプ	
標 準 爪 の 種 類 と 本 数	ナ タ 爪 (R.L)	各 8 本	各 10 本
	偏 心 爪 (R.L)	各 1 本	各 2 本
	ク ロ ス 爪 (R.L)	各 1 本	各 1 本
	偏 心 ク ロ ス 爪 (R.L)	各 1 本	各 1 本
耕 う ん 爪 外 径 (cm)		66	
耕 深 調 節 機 構		油圧コントロールポジション	

※ この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

() 重量は0S

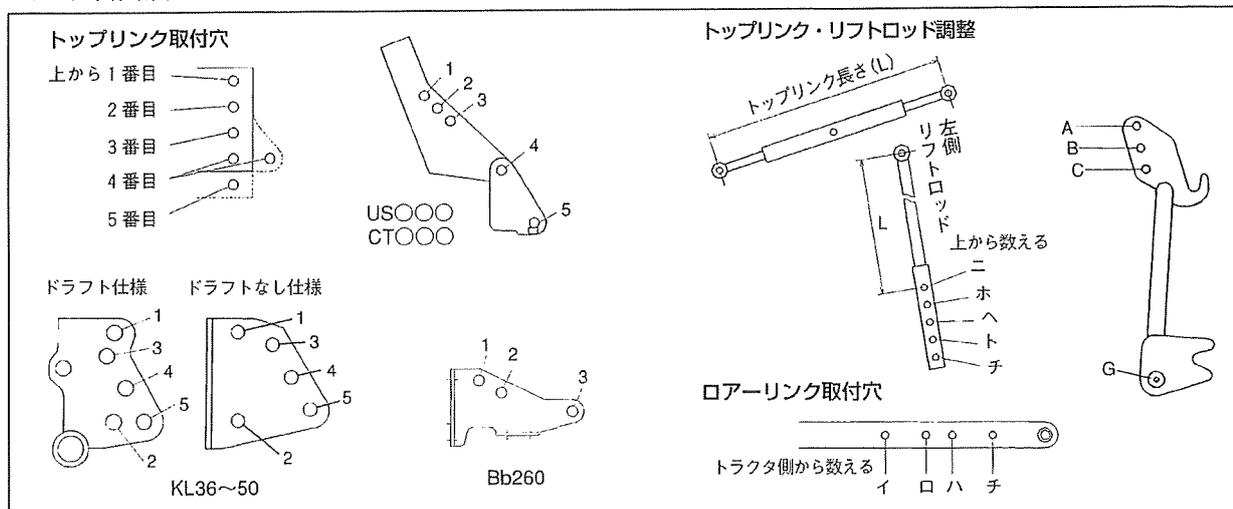
主要諸元

型 式		GS 125T- S T (M)U	GS 155T- S T (M)U
駆 動 方 式		センタードライブ方式 (正転)	
機 体 寸 法	全 長 (mm)	1290	
	全 幅 (mm)	1280	1580
	全 高 (mm)	1325	
重 量 (kg)		230	250
適 応 ト ラ ク タ (PS)		22~28	25~28
標 準 耕 幅 (cm)		120	150
標 準 耕 深 (cm)		30~45	
標 準 作 業 速 度 (km/h)		0.2~1.0	
入 力 軸 回 転 数 (r.p.m)		540	
耕 う ん 軸 回 転 数 (r.p.m)		106	
耕 う ん 爪 取 付 方 法		ホルダータイプ	
標 準 爪 の 種 類 と 本 数	ナ タ 爪 (R.L)	各 8 本	各 10 本
	偏 心 爪 (R.L)	各 1 本	各 2 本
	ク ロ ス 爪 (R.L)	各 1 本	各 1 本
	偏 心 ク ロ ス 爪 (R.L)	各 1 本	各 1 本
耕 う ん 爪 外 径 (cm)		66	
耕 深 調 節 機 構		油圧コントロールポジション	
装 着 方 式		GS-S	日農工特殊3Pオートヒッチ A・I形
		GS-T	〃 A・II形
		GS-(M)U	〃 B形

※ この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

トラクタ別装着表(T-4S・3S)

※この表はあくまでマッチング表であり、トラクタ適応馬力を示すものではありません。トラクタ適応馬力の範囲内で御使用ください。
また、本作業機トラクタ別装着表にお客様のトラクタ型式が載っていない場合は、お買い求めの販売店へお問い合わせください。



トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法 (mm)		備考
	トップリンク取付穴	ローリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付穴	ヒッチピン取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC69	
KL 24R・2450 KL 225・245・230 KL 25・23(J)	4	イ	へ	610	A	G			
KL 24RQ・2450Q KL 225Q・245Q・210Q・230Q KL 25Q・23(J)Q・21(J)Q	1	ロ	へ	620	A	G			
KL 27R・2750 KL 265・250・27 KL 25NC・25HT・25J・KL28rops	4	イ	へ	630	A	G			
KL 27RQ・2750Q KL 265Q・250Q・27Q L 270DQ KL 25NCQ・25HTQ・25JQ KL 25PC・270PC・285PC KL 2850PC	1	イ	へ	650	A	G			
KL 26R-PC・28R-PC・31R-PC	2	ロ	へ	670	C	G			
KL 285~315・270~280 KL 28(a)・27J(a)	4	イ	へ	690	A	G			
GL 221・241 GL 220・240 GL 23	3	イ	へ	640	A	G			
GL 221Q・231Q GL 220Q・240Q	1	イ	へ	590	C	G			
GL 261・277・281 GL 260・268・280 GL 25・26・27 L 27	3	イ	へ	690	A	G			
GL 261C・281C GL 261Q・277Q GL 260Q・268Q GL 25Q・26Q・27Q, L 27Q	2	イ	へ	650	C	G			
GL 281J・280J GL 27J	3	イ	ホ	750	A	G			
GL 281Q・280Q GL 281JQ・280JQ GL 27JQ	3	イ	ホ	740	C	G			
L1-18・20	3	イ	ホ	660	C	G			
L1-225・245・225(a)・235(a) L1-22・24	3	イ	へ	680	A	G			
L1-275J(Q)	3	イ	ホ	750	A	G			

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法 (mm)		備考
	トップリンク取付穴	ローアリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付穴	ヒッチピン取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC69	
L1-275(a) L1-265 L1-26	3	イ	へ	740	A	G			
L1-285 L1-28	3	イ	二	750	A	G			
KT 235(J)・255, T 245D KT 230(J)・250, T 240D	3	イ	ト	625	A	G			
KT 255(J)・285(J), T 265D KT 250(J)・280(J)	3	イ	ト	620	A	G			
KT 235PC KT 255PC・285PC KT 230PC・250PC KT 280PC, T 240D-PC	3	イ	ト	620	A	G			
KT 22(J)・24(J)・27	3	イ	ト	610	A	G			
GT 23(J)・26 T 220・240・22	3	イ	ト	610	A	G	50	50	
GT 26J	3	イ	ト	610	A	G	50	50	
GT-5・8	3	イ	ト	600	A	G	70	70	
X 24	3	イ	ト	600	A	G	70	70	
Bb 260	2	口	ト	550	A	G			
EG 326・328	4	口	ト	570	A	G			
EF 326(V)・328(V)	3	イ	へ	690	A	G			
EF 324	3	イ	へ	580	C	G			
US 261 US 324・328	2	イ	ホ	560	A	G	50	50	
RS 240(a)・270(a) RS 24(a)・27(a)	2	イ	ホ	570	A	G			
AF 322・324・326	3	イ	へ	600	C	G			
AF 328	3	イ	へ	700	A	G			
FX 285・26	3	イ	ホ	570	A	G			
FX 28	3	イ	ホ	560	A	G			
EG 222・224・227 EF 222・224・226・228	3	イ	ト	620	A	G	50	50	
AF 230(J)(R)・250(J)(R) AF 22・24	3	イ	ホ	600	C	G			
AF 230(J)(R)Q AF 250(J)(R)Q, AF 22Q・24Q	1	イ	ホ	570	C	G			ジョイント異音時PTO切
AF 270(J)(R)(a)・290(J)(R)(a) AF 26(a)・28(J)(a)	3	イ	ホ	700	A	G			
F(X) 235・255 F(X) 22・24	3	イ	ホ	640	C	G			
FX 265M	3	口	へ	680	A	G			
FX 265	3	口	ホ	680	A	G			
CT 280	4	イ	へ	550	A	G			
CT 226	3	イ	ト	620	A	G	50	50	
FV 280(a)	2	イ	ホ	620	A	G			
FV 230(a)・250(a)・270(a)	2	イ	ホ	550	A	G	50	50	
AT 240・260・23・25 ATK 220・250・22・25	3	イ	ホ	550	A	G			
AT 280・27	3	イ	ホ	580	A	G			
AT 280C・27C	3	イ	ホ	610	A	G			
TG 27(a) TG 27L	3	イ	二	600	A	G			
TG 253Q TGS 25Q	3	イ	ホ	600	A	G			

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備考
	トップ リンク 取付穴	ローア リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC69	
TG 233・253・23 TG 273(Q)・25(Q) TGS 25	3	イ	ニ	600	A	G			
TG 233Q・253Q TG 23Q	3	イ	ホ	600	A	G			
TG 233-A・253-A・273-A TG 23-A・25-A	2	ロ	ホ	540	A	G			
TK 25・29・33	2	イ	ホ	540	A	G	60	60	
TA 207(Q)・227(Q)・247(Q) TA 267(Q)・287(Q) TA 235(Q)・255(Q)・275(Q) TA 262(Q) TA 230・250	2	イ	ホ	560	A	G	50	50	
TH 235・265 TH 233・253・273 TH 22・24・26 THS 22・24・26	1	イ	へ	470	B	G	90	90	
TH 24C・253C TH 235C・265C	1	イ	へ	600	A	G			
TF 223(N)(Q)・243(N)(Q)	3	イ	ニ L=440	580	A	G	70	70	
TF 23(N)(Q)・26(N)(Q)	3	イ	ホ L=450	580	A	G	70	70	
TF 223H(Q)・243H(Q) TF 23H(Q)	3	イ	ホ L=450	570	A	G	70	70	
TU 237・257 TU 225・245 TU 220・240	2	イ	ニ	610	A	G	70	70	
MT 231・251・271 GO 26・28 GO 260・280 GO 261・281	3	イ	ホ	690	A	G		TC74 に交換	
GOK 26 MT 251K	3	イ	ホ	690	A	G		TC74 に交換	
MT 226・246・266・286 MT 225・245・265	3	イ	ホ L=491	630	A	G			
MT 226Q・246Q・266Q・286Q MT 225Q・245Q・265Q	1	イ	ホ L=491	590	A	G			
MT 265L MT 285	3	イ	ホ L=491	670	A	G			
MT 265LQ MT 285Q	1	イ	ホ L=491	640	A	G			
MT 27	4	イ	ホ L=480	560	A	G			
MTR 250・270 MTM 250・270	3	イ	ホ	640	A	G			
GOZ 24~28	3	イ	ホ	690	A	G			
GJ 24~27	3	イ	ホ	640	A	G			
D 238(Q)・258(Q)・278(Q)	2	イ	ホ	550	A	G	50	50	
D 288(Q)	2	イ	ホ	620	A	G			
S 325A	2	イ	ホ	560	A	G	50	50	
D 235(Q)・265(Q)・275(Q)・295(Q) D 26・28, D 23(M)	2	イ	ホ	610	A	G			
N 229・239	3	イ	ホ	500	C	G			
N 249・279	3	イ	ホ	510	C	G			
NX 261・277・281 NX 25・27 NX 301Z・321Z	3	イ	へ	690	A	G			
NX 261Q・277Q・260Q NX 25Q・27Q	2	イ	へ	650	C	G			
NX 281Q・280Q NX 29Q	3	イ	ホ	740	C	G			

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備考
	トップ リンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC69	
NTX 25	4	イ	へ	610	A	G			
NTX 27・28 NTX 250・267 NTX 28rops	4	イ	へ	630	A	G			
NTX 270~280・287 NTX 28Q	4	イ	へ	690	A	G			
NTX 25Q	1	口	へ	620	A	G			
TZ 235(B)・255 TZ 230(B)・250, TZ 240S	3	イ	ト	625	A	G			
TZ 255(B)・285(B) TZ 250(B)・280(B)	3	イ	ト	620	A	G			
TZ 20(B)・22(B)・24(B)・27	3	イ	ト	610	A	G			
TZ 27B	3	イ	ト	610	A	G	50	50	
NZ 235(B)・265	3	イ	ト	610	A	G	50	50	
NZ 265B	3	イ	ト	610	A	G	50	50	
NZ 230・260	3	イ	ト	600	A	G	70	70	
TX 261・281 TX 260・280	3	イ	へ	690	A	G			
TX 260Q・280Q	2	イ	へ	650	C	G			
TX 281Q TX 280Q	3	イ	ホ	740	C	G			
TX 252	4	イ	へ	610	A	G			
TX 272・253	4	イ	へ	630	A	G			
TX 273	4	イ	へ	690	A	G			
TX 252Q	1	口	へ	620	A	G			

点検整備一覧表

時 間	項 目	参照ページ
新品 使用始め	チェンケース（ギヤケース）のオイル点検	20
新品 1時間使用後	全部のボルト、ナットを増し締め	20
新品50時間使用後	チェンケース（ギヤケース）のオイル交換	26
毎日の作業前	①チェンケース（ギヤケース）のオイル量、オイル漏れの点検	20
	②ローター爪の取付ボルトの増し締め	20
	③ジョイントのグリスニップルへのグリス注入	20
	④地面から上げて空転での、異音、異常振動等、異常の点検	21
毎日の作業後	①洗浄後、水分拭き取り	26
	②ボルト、ナット、ピン類の緩み、脱落の点検	20
	③ローター爪、爪ホルダ等の摩耗、折損の点検	24
	④入力軸へグリス塗布	26
	⑤ジョイントスプライン部へグリス塗布	26
	⑥ジョイント、ノックピンへ注油	26
	⑦可動部へ注油（エプロンのヒンジ部）	26
150時間毎 又は シーズン終了後	①ギヤケースのオイルシール、パッキンの異常点検	26
	②チェンケース（ギヤケース）のオイル交換とオイルシール、パッキンの異常点検	26
	③ジョイントのシャフトへのグリス塗布	26
	④安全ラベルの剥がれの点検	5～6
	⑤無塗装部へのサビ止め	
	⑥消耗部品の早期交換	

異常診断一覧表

使用中あるいは使用後の点検時に下表の異常が発生した場合、そのままにしておきますと故障、事故の原因となります。

再使用せず、直ちに対策を行ってください。

本体各部	症 状	原 因	対 策
チェン ケース	異 音 の 発 生	ベアリングの損傷	ベアリング交換
		ギヤーの損傷	ギヤー交換
		ベベルギヤーのかみ合い不良	シムで調整
	オ イ ル 漏 れ	入力軸：軸受け部オイルシールの損傷	オイルシール交換
		液体パッキンの劣化	液体パッキン塗り直し
		パッキンの劣化、損傷	パッキン交換
		カバー取付ボルトのゆるみ	ボルト増し締め
	異常な高温の発生	オイル量の不足	オイル補給
		ベアリングの損傷	ベアリング交換
	異 音 の 発 生	チェンテンションの破損	テンション交換
		スプロケットの損傷	スプロケット交換
		ベアリングの損傷	ベアリング交換
	オ イ ル 漏 れ	軸付きシール、タワミシール、Oリングの劣化、損傷	軸付きシール、Oリングの交換
		カバー取付ボルトのゆるみ	ボルトの増し締め
	異常な高温の発生	オイル量の不足	オイル補給
		ベアリングの損傷	ベアリング交換

耕うん軸	異音の発生	軸受部のベアリングの損傷	ベアリング交換
		ローター爪取付ボルトのゆるみ	ボルト締め付け
		ローター爪の変形によるカバーとの干渉	ローター爪交換
	振動の発生	ローター爪軸の曲がり	ローター爪軸交換
		ローター爪、爪軸へのワラ、草等のかかり	ワラ、草等の除去
		ローター爪の配列不良	爪配列の点検
	軸回転不良	チェンの切損	チェン交換
		駆動軸の折損	駆動軸交換
		ギヤの破損	ギヤ交換
	オイル漏れ	軸付きシールの損傷、耕うん軸ボルトのゆるみ	軸付きシール交換、ボルトの増し締め
		Oリングの劣化、損傷	パッキン、Oリング交換
	残耕の発生	ローター爪の摩耗、折損、曲がり	ローター爪の交換
		ローター爪の配列不良	爪配列の点検
	異常な土寄りの発生	ローター爪の配列不良	爪配列の点検
	ジョイント	異音の発生	グリス切れ
ジョイント折れ角が不適格			マッチング姿勢の矯正
ローターの上げすぎ			リフト量の規制
たわみ発生		シャフトのかみ合い幅不足	長いものと交換
スプライン部のガタ		ノックピンとヨークの摩耗	交換

用語解説

アタッチメント

作業機に後付けする部品

オートヒッチ

トラクタに乗ったままワンタッチで作業機を装着できるヒッチ

クリーブ

超低速の作業速度

耕深

耕うんする深さ

3点リンク

トラクタに作業機を装着するための3点で支持を行うリンク

チェックチェン

トラクタに対し作業機が左右に振れる量を規制するチェン

トップリンク

作業機を装着する3点のリンクのうち、作業機の上部を吊り下げているリンク

揚力

トラクタが作業機を上昇させるための力

ジョイント

トラクタの動力を作業機へ伝達するための軸

リフトロッド

トラクタが作業機を上げるためロアーリンクと連結しているアーム

リリーフ弁

油圧装置に規定以上の油の圧力がかかり油圧装置が破損することを防止する弁

ロアーリンク

作業機を装着する3点リンクのうち、作業機の下部を吊り下げているリンクで、左右1本ずつある

ポジションコントロールレバー

作業機を上げ下げするために使用するレバー

MEMO



A series of horizontal dashed lines for writing.

MEMO



A series of horizontal dashed lines for writing.

MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing.

KOBASHI

小橋工業株式会社

〒701-0292 岡山市南区中畦684

インターネットでも弊社の情報がご覧いただけます。

<http://www.kobashiindustries.com>

■北海道営業所	〒071-1248	北海道上川郡鷹栖町8線西2号6番	☎(0166)49-0070
■東北営業所	〒024-0004	岩手県北上市村崎野13地割35-1	☎(0197)71-1160
■関東営業所	〒321-3325	栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台47-1	☎(028)687-1600
■岡山営業所	〒701-0165	岡山市北区大内田727	☎(086)250-1833
■九州営業所	〒861-2236	熊本県上益城郡益城町広崎1586-8 2F	☎(096)286-0202